



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	北海道大学附属図書館報「榆蔭」125号
Issue Date	2007-03-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/66300
Type	journal
File Information	yuin125-2.pdf, 後半 : 国際会議（海外出張報告）・北方資料室紹介・教員著作寄贈図書など



国際会議(海外出張報告)

ACCESS 2006とミシガン州内大学訪問記

大学院工学研究科・工学部図書整理係長 金子 敏

大学院薬学研究院・薬学部図書係 磯本 善男

1. はじめに

このたび、国立情報学研究所の次世代学術コンテンツ基盤共同構築事業に係る機関リポジトリに関する調査・研究の一環として、カナダで開催された国際会議「ACCESS 2006」*1の Preconference に参加しました。また、アメリカのミシガン州にあるミシガン大学図書館、ウェイン州立大学図書館を訪問し、各大学の機関リポジトリへの取り組みと現況について伺ってきました。

2. ACCESS 2006 Preconference

ACCESS 2006の Preconference である「Institutional Repositories: The Next Generation」が、平成18年10月10日（火）に CARL: Canadian Association of Research Libraries 主催でカナダの首都であるオタワにおいて開催されました。「ACCESS」とは、電子図書館に関するカナダを中心とした国際技術会議のことです。

当日は、機関リポジトリに関して、トロント大学等カナダの諸機関から5件の発表と、「Where can we go from here?」と題したパネルディスカッションがありました。参加者は約60名。そのほとんどがカナダの図書館関係者でしたが、ナイジェリアやエチオピア、韓国の方々も名簿では確認できました。飛行機の遅延のため、午後からのみの参加でしたが、カナダにおいても機関リポジトリを取り巻く状況は日本と変わらない様子でした。つまり、組織の中でのその位置付け、サービスの展開、有効性の検証等を検討・模索している段階で、パネルディスカッションの題でも触れているように、現状をどう打開し、前進していけばいいのか頭を悩ませていると感じました。

3. ミシガン大学図書館 (University of Michigan Library)

ミシガン大学は、アメリカのミシガン州アナーバー市に3つのキャンパスを持つ、学生数約40,000人、教員約5,000人の州立総合大学です。

10月12日（木）に私たちが訪問した Harlan Hatcher Graduate Library は、中央キャンパスのやや南よりに位置し、文学と社会科学を中心に10,000タイトルのジャーナル、および数百の言語で書かれた広い分野の定期刊行物を含む約250万冊の資料を持つ8階建ての図書館です。

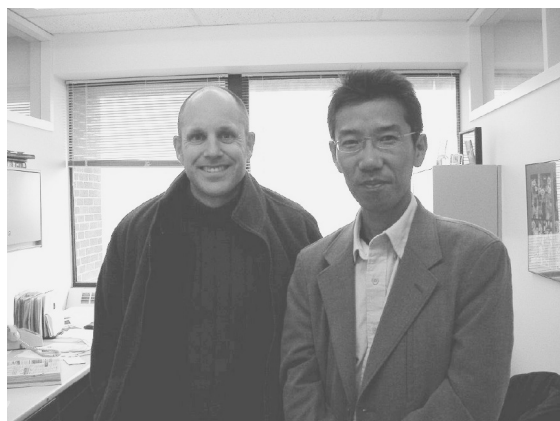
ミシガン大学の機関リポジトリ「Deep Blue」*2チームのオフィスは、広大なキャンパスを見下ろせるこの建物の最上階の一角にあり、様々な時代の地図類（デジタル資料を含む）を収めた大型ラックが林立する、Map Library の



ミシガン大学 Harlan Hatcher Graduate Library
の正面

静かな空間の奥に鎮座していました。

Deep Blue は、ソフトウェアに DSpace を使用しており、2006年5月より公開、2007年2月現在約33,000件の論文が登録されています。また、登録されたすべての論文のフルテキストにアクセスがで



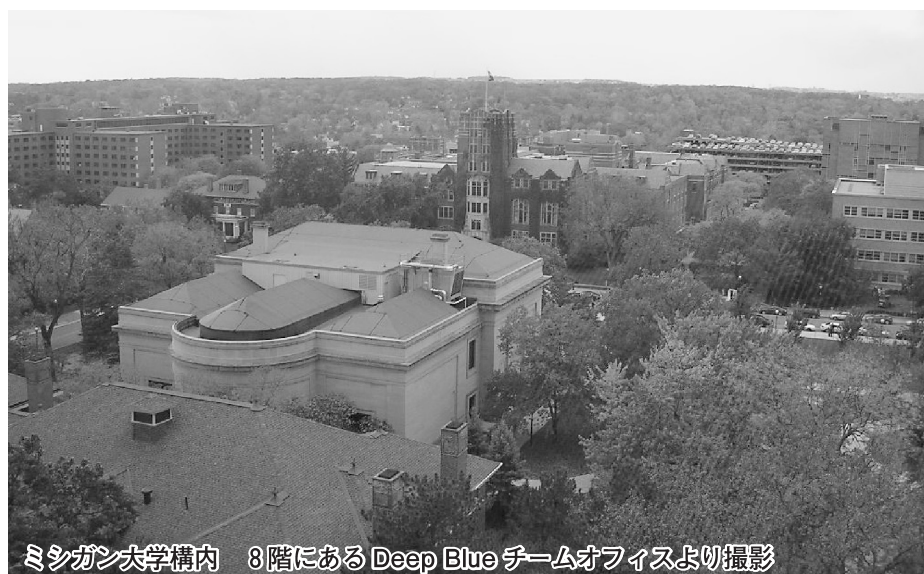
Deep Blue チームオフィスにて
チームリーダーの Jim Ottaviani さんと金子

きて、そのほとんどが雑誌論文であることから、世界のリポジトリの中でも量、質ともにトップレベルにあるといえます。

企画、運用、コンテンツ登録などは、今回訪問したチームを中心に行われており、正式な公開からまだ1年も経っていないのに、既に図書館の事業の一分野として確立されている印象でした。

ミシガン大学では、学術情報を電子的にサービスする組織として、サービスプロバイダで有名な OAIster や、電子コレクションの Humanities TextInitiative 等を運用する DLPS: Digital

Library Production Service, 電子版学内出版物を手がける Scholarly Publishing Office, そして、機関リポジトリを提供する Deep Blue チームと、3つの組織が独立して運営されており、それらを統括するため、複数の Acting Director が会議を開いて方針を決定するとのことでした。



ミシガン大学構内 8階にある Deep Blue チームオフィスより撮影

4. ウェイン州立大学図書館 (Wayne State University Library)

ウェイン州立大学は、ミシガン州デトロイト市の中心にあり、世界100カ国から約33,000人の学生が集まる州立総合大学です。キャンパスが都会の真ん中にあるという関係からか、図書館では、象の白骨の展示や、定期的なイベント企画等で地域の学外利用者へ積極的に利用を呼びかけているようです。

10月13日（金）に私たちが訪問した Undergraduate Library は、キャンパスの中心よりやや南西に位置し、マルチメディア、コンピュータールームを完備した基礎教育支援がメインの図書館です。エントランスホール脇には、ボリスステーションが陣取っていて、構内24時間体制でパトロールを行って

いるそうです。全米危険都市ランキング2位のデトロイトならではの光景といえます。

2006年2月より公開された、機関リポジトリ「Digital Commons@Wayne State University」*3は、ソフトウェアにBepressを使用し、2007年2月現在、学位論文を中心に、創作物、雑誌論文等多岐に渡る約2,700件のコンテンツを登録しています。学位論文等は、ProQuest社に電子化させ、それを購入して公開しており、コンテンツの種類としてはJSTOR等のデータベースが充実しているため、必ずしも雑誌論文をコ



ウェイン州立大学 Undergraduate Library の正面にて 磯本



Undergraduate Library のエントランスホール
? マークの下はインフォメーションデスク

ンテンツの中心にする必要はない、とのことでした。

また、デトロイト市の高校等教育機関と連携して、詩などの創作物を機関リポジトリに登録・公開し、かつ、冊子体も出版するといった、地域の創作活動の促進と、リポジトリの宣伝を兼ねた Chapbooks Project という事業を行っているそうです。さらに、「History of Toys」等動画を含む特殊コレクションのコンテンツを登録しており、従来からある電子図書館サービスとの融合も考えているようです。

5. おわりに

同じリポジトリという言葉を使っている、その中身、運用の仕方は機関によって千差万別です。しかし、今回の会議への参加、図書館への訪問を通じて、そこに携わる図書館職員の苦勞と喜びは、国や言語が違えども身に沁みて共感できる普遍的なものなのだと、しみじみ思い知らされた北米出張でありました。

最後になりましたが、貴重な時間を割いて親切にご対応いただいたミシガン大学図書館、ならびにウェイン州立大学図書館の皆様、そして、このような見聞を広げる機会を下さった国立情報学研究所および北海道大学附属図書館関係者の皆様に感謝申し上げます。

1) ACCESS 2006

<http://www.access2006.uottawa.ca/>

2) Deep Blue

<http://deepblue.lib.umich.edu/index.jsp>

3) Digital Commons@Wayne State University

<http://digitalcommons.wayne.edu/>

HUSCAP 海を渡る～英国国際会議発表

附属図書館情報システム課システム管理係長 杉 田 茂 樹

附属図書館情報管理課図書受入係 鈴 木 雅 子

平成18年10月17日から28日にかけて、本学機関リポジトリ「北海道大学学術成果コレクション (HUSCAP)」の成果発表を目的として、英国に出張しました。

1. Open Scholarship 2006

10月18日から20日にかけて、情報基盤センター野坂政司教授とともに、グラスゴー大学で開催された国際会議「Open Scholarship 2006」[1]に参加しました。「Open Scholarship 2006」は、オープンアクセス運動や欧州各大学における機関リポジトリの構築をテーマとした国際会議です。欧州を中心とした世界各国から200名前後の参加者がありました。

会議冒頭には機関リポジトリ構築実務上のテーマごとに分かれたセッションがあり、「構築戦略 (上級)」に参加し、機関リポジトリ構築上のさまざまな話題について討議しました。

海外では、NIH (米国国立衛生研究所) や RCUK (英国研究会議) などの研究資金助成機関が、助成した研究活動の成果である学術論文を、助成機関自身のあるいは著者の所属大学の機関リポジトリに搭載することを義務付けようとする動きがあります。会議への参加者は全般にこうした情勢への意識が高く、その機関リポジトリ構築への影響などについても熱心に話し合われました。

会議主部は機関リポジトリとその周辺のテーマについて幅広く取り扱うもので、付加価値サービス、法的問題、品質管理、持続性確保、研究活動との接点など、非常に多彩な発表がありました。その後の質疑応答も、また休憩時間の交流も活発で、概して錚々たる先導的メンバーも、取りかかったばかりの図書館員も同等に議論に参加している点が新鮮でした。

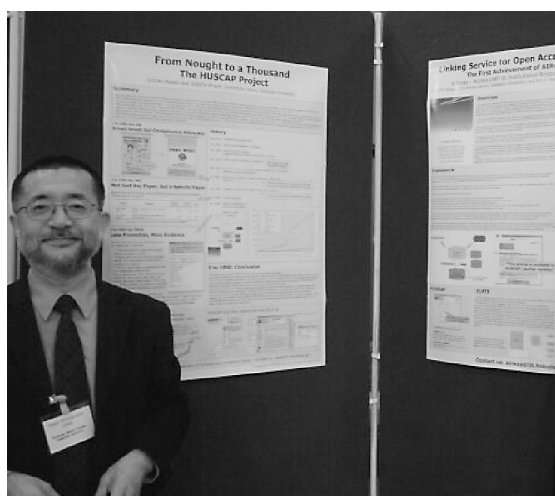
3日目にポスターセッションがあり、各国から約20枚の出展がありました。北大からは「From Nought to a Thousand: the HUSCAP Project」と「Linking Service for Open Access Repositories」の2枚のポスターが受理され、展示・発表することができました。前者はHUSCAPのこれまでの取り組みをまとめたもの、後者はリンクリゾルバを通じた機関リポジトリ収載文献の集客力増強方策について米国 OCLC (Online Computer Library Center) との共同ですすめている研究開発プロジェクト「AIRway」[2]についての技術的な話題と成果を報告するものです。

いずれも多くの人々が足を止めてくれ、有意義な意見交換を行うことができました。

「文献提供者へのHUSCAP収録文献の利用数通知はどのようにやっているのか、うちでもぜひやりたい。研究者とのコミュニケーションの強化になると思う (スイス連邦工業大学)」, 「OpenURLによるリンク技術を用いて機関リポジトリの可視性を高めるというアイディアは素晴らしい (英国ハル大学)」など、予想以上に好意的なコメントをもらえたことが印象的でした。



(Open Scholarship 2006 会場入口)



(同行の野坂教授と出展ポスター[3])

2. 白バラ連合リポジトリとクランフィールド大学

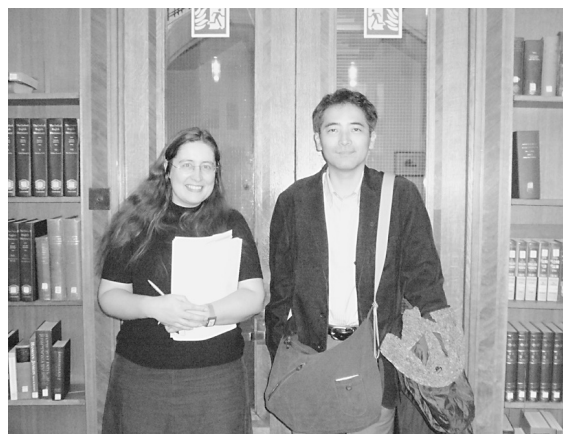
10月23日にヨーク地方のリーズ大学、同24日にロンドン郊外のクランフィールド大学を訪問しました。

リーズ大学は、提携関係にある近隣のヨーク大学、シェフィールド大学とともに、共同システムによる3大学合同の機関リポジトリ「White Rose Repository」の構築をすすめています。また、「Cranfield QU-Eprints」を擁するクランフィールド大学も英国の機関リポジトリ関連のメーリングリストで活発な活動を展開していることが報告されていました。

ともに、直接の担当者にお会いし、機関リポジトリ構築の実際について双方の取り組みの紹介と意見交換をしました。機関リポジトリに対する考え方、コンテンツ収集方針、教員へのアプローチ方法など、北大とそっくり同じで、たいへん嬉しく感じました。また説明の要所要所では、HUSCAPの取り組みについて「参考になる」と言って頂きました。

機関リポジトリ構築の先進地域である英国においても、私たちと同じ道を通り、同じ悩みを抱えて努力を続けているということ、私たちが試行錯誤を重ねながら独自に考えてやってきたことが間違っていなかったこと、感慨深く思いました。

また、AIRwayのプレゼンテーションを行い、理解と賛同を得られました。現在、クランフィールド大学はAIRwayプロジェクトに参加しています。



(リーズ大学)



(クランフィールド大学)

3. UKOLN

10月26日にバース大学に拠点を置く UKOLN を訪問しました。

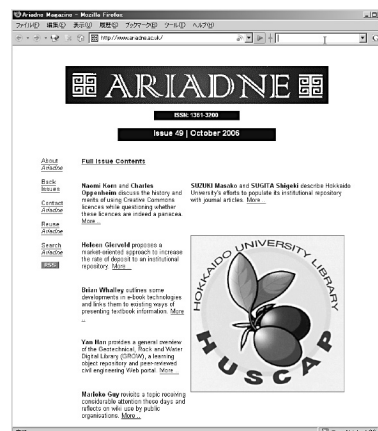
UKOLN は図書館情報学に関する電子ジャーナル「ARIADNE」の刊行元で、北大は昨秋号に HUSCAP の取り組みに関する報告論文を発表し、HUSCAP のロゴマークがその表紙を飾りました。

SUZUKI, Masako and SUGITA, Shigeki.

“From Nought to a Thousand: the HUSCAP Project”

ARIADNE, issue 49, Oct. 2006

<http://www.ariadne.ac.uk/issue49/suzuki-sugita/>



(ARIADNE 49号表紙)

UKOLN はバース大学の組織ではなく、電子情報資源管理について英国全体をサポートする独立の活動機関です。そのせいもあり国家的観点からの議論が多く、機関リポジトリ構築の実践的内容につ



(UKOLN)

いてはこちらがヒアリングされる一方でした。ほかに日本全体の動向、それから AIRway についても説明し、英国の参考となる事例や情報を伺いました。

英国で賞賛されたことを誇りに思うとともに、先生方のご協力のおかげであると痛感しました。これからもがんばっていききたいと思います。

最後になりましたが、貴重な英国視察の機会を与えて頂いたことに感謝いたします。

参考：

[1] Open Scholarship 2006 <<http://www.lib.gla.ac.uk/openscholarship/>>

[2] AIRway プロジェクト <<http://airway.lib.hokudai.ac.jp/>>

[3] 出展ポスター AIRway <<https://dspace.gla.ac.uk/handle/1905/659>>,
HUSCAP <<https://dspace.gla.ac.uk/handle/1905/658>>

附属図書館北方資料室紹介

内村鑑三が日本魚学の先駆者だった!!

北方資料室内「北大沿革資料室」に、内村鑑三直筆の「日本魚類目録」(以下、目録と云う)の稿本を展示しています。

この目録は、内村鑑三が明治16年(1883)11月から約1年間の歳月をかけて、日本の魚類全般にわたって作成し、日本人によって書かれた最初のもので云われています。

この目録の作成については、「水産界の先駆 伊藤一隆と内村鑑三」(大島正満著、財団法人北水協会、昭和38年発行)174頁に次の記載があります。

『明治16年クリスマスの日、既に札幌に帰っていた盟友宮部金吾宛に農商務省に於て内村鑑三が認めた書信の一節に「目下かなり忙しい。水産慣行調査を委託され、主として自然科学部門を担当する。多分明年は、神が若し十分な体力を与えて下さるならば、一年中出張旅行となるだろう。同時に、チャンバレン博士の日英新辞典にかかげるために、日本産魚類の目録をつくっている。これは少なくとも一年位はかかるだろう。また魚類に就いて七十頁の本を書いたが、来年の一月に出版されるだろう。一人の学生が毎晩やって来て、僕の講義を筆記している。」この魚類目録こそは、若し完成して出版されていたならば、日本魚学の金科玉条となってその第一頁を飾るものであったろうに、未完稿のまま筐底に葬られ、遂に日のめを見ず。内村鑑三の宗教家としての名は世に鳴り響いていても、彼が日本魚学の先駆者であったことは殆ど知る人が無い。』

さて、なぜ北方資料室にこの目録が所蔵されているのか?

前述の「水産界の先駆…」201頁の記載から、何故この目録が北方資料室の所蔵となったかを追ってみます。

①内村鑑三「昭和5年(1930年死去)」が、長く内村家の車夫として仕えた藤沢音吉氏に贈る → ②藤沢音吉が、病床にあった自分を看とってくれた素封家長谷川周治氏へ贈る → ③長谷川周治が、自分の娘の月下氷人(仲人)の役をつとめた、藤沢武平二へ昭和23年(1948)9月27日に記念として贈る → ④藤沢武平二が、自分で持っていたが無意味なため、昭和23年10月10日に学友で専門の大島正満氏に渡す → ⑤大島正満が、この稿本が真筆であるかを宮部金吾氏に意見を伺い、宮部金吾の返事(昭和23年10月18日)によって → ⑥大島正満氏が、昭和26年(1951)6月23日、北海道大学附属図書館(北方資料室)に寄贈する。

この稿本が真筆か否か？

これも、「水産界の先駆…」202頁に次の記載があります。

『筆者（大島）が入手した稿本が果たして真筆であるかどうかを確むるため、入手の顛末を当時まだ元気であられた宮部金吾先生に報じてご意見を伺ってみた。老先生は思ひもよらぬ朗報に驚喜せられ、次のような返書を賜った。

「その稿本の表題に書いてある魚類の類の字がウソ字で、篇が婁となつて居れば、内村の真筆に間違いなし。且つまた内村が全く興味を失っていた魚学の稿本を、車夫藤沢音吉にあたえてしまったこともあり得べき次第で、真筆ときまったら此上なき珍宝故、北大図書館え寄贈保存させるがよい」後篇の口絵として図示した通り、宮部先生が指摘された鑑三のウソ字は歴然としているし、文字の凡てが内村鑑三の直筆であることは間違いがない。』

この「返書」も、「日本魚類目録」と並べて展示しています。

このように、この「日本魚類目録」は、内村鑑三の手を離れ転々として、大島正満先生（大島正健氏：札幌農学校第1期生の長男で東京大学動物学教授）に巡り会い、且つ宮部金吾先生に意見を聞かなかったら、北海道大学附属図書館の所蔵とはならなかったと思います。

みなさん、このような経過を持ち、世の中に一点しかない内村鑑三直筆の「日本魚類目録」を一度ご覧になりませんか？



写真 その1（目録）

解説

「日本魚類目録」稿本の表紙

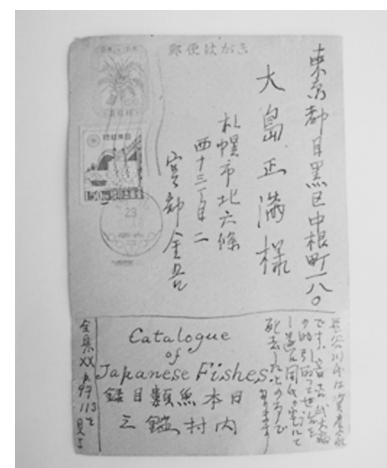


写真 その2（葉書）

解説

宮部金吾氏から大島正満氏への
真筆との返書

教員著作寄贈図書

(平成18年10月21日～平成19年 2 月26日)

寄 贈 者	所属部局	寄 贈 図 書	所 在
望月 哲男	スラブ研究センター	イワン・イリイチの死：クロイツェル・ソナタ / トルストイ著；望月哲男訳. 一光文社, 2006.10. ー (光文社古典新訳文庫)	本館・開架・文庫
青木 由直	名誉教授	札幌秘境100選 / 青木由直編著. 一札幌：マップ ショップ, 2006.10	本館・開架閲覧室
井上 勝生	文学研究科	幕末・維新 / 井上勝生著. 一岩波書店, 2006.11. ー (岩波新書；新赤版1042. シリーズ日本近現代史；1)	本館・開架・文庫
津田 一郎	電子科学研究所	カオス：力学系入門 1, 2 / K. T. アリグッド, T. D. サウアー, J. A. ヨーク著；津田一郎監訳, ーシュ プリンガー・ジャパン, 2006.12	分館・開架一般図書
加藤 重弘	文学研究科	日本語文法入門ハンドブック／加藤重弘著. ー研究 社, 2006.12	本館・開架閲覧室 分館・開架一般図書
亀井 秀雄	名誉教授	「소설」론：『小説神髓』와 근대 / 가메이 히데오 지음；신인섭 옮김서울：건국대학교출판부, 2006 [「小説論」：『小説神髓』と近代]	本館・国際交流コー ナー
亀井 秀雄	名誉教授	메이지 문학사 / 메이지 문학사 [지음] ；김춘미 옮 김서울：고려대학교출판부, 2006 [明治文學史]	本館・国際交流コー ナー
蓬田 清	理学研究院	演習形式で学ぶ特殊関数・積分変換入門 / 蓬田清 著. ー共立出版, 2007.1	本館・開架閲覧室
寺尾 宏明	理学研究院	大学でどのような数学を学ぶのか / 数学セミナー 編集部編.：日本評論社, 2002.2	本館・開架閲覧室
寺尾 宏明	理学研究院	不変量とはなにか：現代数学のころ / 今井淳 [ほか] 著. ー講談社, 2002.11. ー (ブルーバックス； B-1393)	分館・開架一般図書

ご惠贈誠にありがとうございました。
図書館では本学教員が執筆した図書資料を収集しています。新たに本を出版される際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。また、北京大学図書館との相互交流および協力に関する覚書の締結に基づき、北京大学との交換用にもう1冊分、ご寄贈いただきますようご協力をお願い致します。とりまとめは、附属図書館で行います。

学術成果コレクション（HUSCAP）寄贈文献

(平成18年10月21日～平成19年 2 月26日)

218名の先生から、467件のご著作論文等を寄贈いただきました。
HUSCAP：北海道大学学術成果コレクションにて保存・公開しています。
なお、研究紀要等電子ジャーナル化支援プロジェクトにより、この期間、新たに6研究科等の8タイトルの紀要文献3,161件がHUSCAP上で公開されています。
HUSCAPについて詳しくは、<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/> をごらんください。



ご惠贈誠にありがとうございました。図書館では本学教員が執筆した著作の原稿ファイルを収集し、HUSCAPにて保存・公開しています。新たに論文等を発表された際には、是非ご惠贈くださるようご協力お願い致します。ファイルは、repo@lib.hokudai.ac.jp宛にメールでお送りいただくだけで結構です。

会議（平成18年11月18日～平成19年3月22日）

【学 内】

◎図書館委員会

○第205回〈3月22日（木）〉

議題

1. 図書館関係規程の改正及び廃止について

改正

- 1) 北海道大学附属図書館規程
- 2) 北海道大学図書館委員会規程
- 3) 北海道大学附属図書館利用規程
- 4) 北海道大学附属図書館北分館規程
- 5) 北海道大学附属図書館文献複写規程
- 6) 北海道大学附属図書館文献複写料金規程
- 7) 北海道大学が発行する出版物の保存に関する規程
- 8) 北海道大学附属図書館学術研究コンテンツ小委員会設置要項
- 9) 北海道大学附属図書館点検評価小委員会設置要項
- 10) 北海道大学附属図書館学術成果発信小委員会設置要項
- 11) 北海道大学附属図書館北分館規程に関する申し合わせ
- 12) 北海道大学審査学位論文利用内規
- 13) 北海道大学附属図書館閲覧個室利用内規
- 14) 北海道大学における書誌・所在情報の取り扱いに関する要項

廃止

- 1) 自己点検評価小委員会設置要項
- 2) 資料整備に関する懇話会要項
- 3) 北海道大学図書館情報ネットワークサービスの利用に関する要項
- 4) 図書館情報システム運用方針

2. 学術研究コンテンツ小委員会からの提案について

- 1) 平成20年度以降の学術研究コンテンツ整備に関する基本方針について
- 2) 学術研究コンテンツ整備に関する取り決め事項について

3. 平成18年度学術成果発信小委員会報告書（案）について

4. 平成18年度附属図書館点検評価について

- 1) 平成18年度附属図書館事業計画の点検・評価について
- 2) 附属図書館利用者アンケート実施結果について
- 3) 点検評価小委員会委員選出申し合わせ（案）

5. その他

報告事項

1. 平成19年度附属図書館本館・北分館開館日程について

2. 学術研究コンテンツ小委員会(平成18年度第3～4回)について
3. 学術成果発信小委員会(平成18年度第2～5回)について
4. 点検評価小委員会(平成18年度第1回)について
5. 図書館情報システムの機器更新計画について
6. 平成20年度概算要求について
7. 平成19年度年度計画について
8. 国立情報学研究所(NII)の週及入力事業について
9. 科学研究費補助金について
 - 1) 研究成果公開促進費「北方関係資料総合データベース」について
 - 2) 奨励研究「大学・研究機関が公開する学術成果コンテンツへのアクセス増進に関する技術動向調査」について
10. 平成18年度(春期)本館書庫資料の蔵書点検について
11. 附属図書館(本館)の一部改修について
12. 附属図書館北分館の耐震補強工事について
13. 平成18年度附属図書館講演会について
14. 図書関係事務組織について
15. リンクリゾルバの試行導入について
16. 情報コンセントの運用変更について
17. 図書館関係諸会議について
18. その他
 - 1) 第49回北海道地区大学図書館協議会研究集会について
 - 2) 第48回北海道図書館大会について

◎学術研究コンテンツ小委員会

- 平成18年度第3回〈2月7日(水)〉
- 平成18年度第4回〈3月2日(金)〉

◎学術成果発信小委員会

- 平成18年度第4回〈2月6日(火)〉
- 平成18年度第5回〈3月7日(水)〉

◎点検評価小委員会

- 平成18年度第1回〈3月16日(金)〉

【学 外】

◎北海道地区大学図書館協議会

- 第1回幹事館会議〈3月14日(水)〉(北海道大学)

◎北海道図書館連絡会議

- 図書館年鑑北海道ブロック協力者会議〈1月17日(水)〉(道立図書館)

人 事 往 来

【平成18年12月31日付発令】

〔辞職〕

中 村 直 子 工学研究科・情報科学研究科・工学部総務課図書閲覧係

図書館日誌（平成18年11月～平成19年2月）

月 日	項 目	月 日	項 目
11月		11	文献探索ワークショップ(留学生センター)
1	図書関係業務統合 WG 会議(第3回)(部長, 情報管理課長)	13	平成18年度第7回ホームページ委員会
2	図書館年鑑2007北海道ブロック協力者会議(1回目)(道立図書館)(情報サービス課長)	13-15	著作権講習会(情報サービス課)
2	平成18年度第3回北分館図書選定小委員会	15	ライブラリーセミナー(Web of Science の使い方)
2	情報探索入門	21	平成18年度第5回本館図書選定小委員会
6	文献探索ワークショップ(経済学研究科)	22	ライブラリーセミナー(PubMed/MEDLINE の使い方)
7-10	西洋社会科学古典資料講習会(東京)(情報システム課)	22	LexisNexis Academic 講習会
7-10	情報探索入門	26-1/17	北分館4階機械室アスベスト除去工事
8	平成18年度第3回学術成果発信小委員会	1月	
9	大学知的財産戦略研修会(札幌)(情報システム課)	12	文献探索ワークショップ(教育学研究科)
15	平成18年度第6回ホームページ委員会	16	平成18年度第3回榆蔭編集委員会
15	情報探索入門	17	図書館年鑑2007北海道ブロック協力者会議(2回目)(道立図書館)(情報サービス課長)
15	ライブラリーセミナー(電子ジャーナルの使い方)	17-19	日本古典籍講習会(東京)(情報システム課)
16	図書業務担当者連絡部会(図書管理部会-第1回)	18-20	ジャーナル電子化関連ワークショップ(東京)(情報システム課)
16	本館消防避難訓練	22-30	図書館実習(近畿大学1名)
16-17	共同ワークショップ「日本の機関リポジトリの今2006」(千葉)(情報システム課)	23	ライブラリーセミナー(国内雑誌論文の探し方)
17	図書業務担当者連絡部会(雑誌情報部会-第1回)	24	平成18年度第8回ホームページ委員会
17	北海道地区国立大学附属図書館事務(部・課)長会議	25	平成18年度第4回北分館図書選定小委員会
17	国立情報学研究所教育研修事業国際シンポジウム(仙台)(情報管理課)	25	平成18年度第2回全学図書担当係長連絡会議
18	図書館停電のため午前中臨時閉館(本館)	26	平成18年度第6回本館図書選定小委員会
20	図書業務担当者連絡部会(図書目録部会-第1回)	30	ライブラリーセミナー(Web of Science の使い方)
20	第8回図書館総合展(横浜)(情報システム課)	2月	
24	ライブラリーセミナー(PubMed/MEDLINE の使い方)	2	図書館見学(釧路湖陵高校6名)
27	平成18年度第6回北海道大学認証基盤整備専門委員会(情報システム課長)	6	平成18年度第4回学術成果発信小委員会
27	専門図書館北海道地区協議会創立50周年記念講演会(部長)	7	デジタルコンテンツプロジェクト会議(東京)(情報システム課)
30	平成18年度第4回本館図書選定小委員会	7	平成18年度目録システム/ILL 講習会担当者会議(NII)(情報システム課)
30	文献探索ワークショップ(医学部・保健学科)	7	平成18年度第3回学術研究コンテンツ小委員会
12月		8-9	DRF 第2回ワークショップ(東京)(情報システム課)
1	図書業務担当者連絡部会(サービス部会-第1回)	14	平成18年度第9回ホームページ委員会
5-6	SciFinder Scholar 講習会(工学研究科)	21	平成18年度東北地区大学図書館課題検討ゼミナール(仙台)(情報システム課)
11	平成18年度第1回図書館情報システム仕様策定委員会	22	平成18年度第7回本館図書選定小委員会
		26	図書館業務担当者連絡部会(ILL 部会-第2回)
		27	Web of Science 講習会

北海道大学附属図書館報「榆蔭」(ゆいん) 第125号 平成19年3月30日発行

〈編 集〉 「榆蔭」編集委員会

〈発 行〉 北海道大学附属図書館 〒060-0808 札幌市北区北8条西5丁目
TEL : 011-706-2967 FAX : 011-747-2855 ホームページ <http://www.lib.hokudai.ac.jp>